

(3) 地域医療

1. 研修目標

医療全体におけるプライマリケアや地域医療の位置づけと機能を理解する。すなわち、患者が営む日常生活や、居住する地域の特性に即した医療（在宅医療含む）、診療所の役割（地域連携含む）、へき地・離島医療について理解し、実践できるようになることである。

結果、地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応できる医師の養成を目指す。

2. 研修指導体制

へき地・離島の医療機関、長崎市内・近隣の診療所で指導医の指導下に、

1. 地域医療における外来患者の初期対応を経験する。
2. 地域の医療機関で入院患者の担当医として研修する。
3. 在宅訪問診療や関係機関での研修、地域のセミナーなどに参加する。

3. 研修指導責任者 土橋 佳子

4. 研修内容

原則、研修2年目に一か月間（以上）の研修を行う。1-2カ所を選択する。

common disease を多く経験し、プライマリケア、リハビリテーション、在宅医療、終末期医療など大病院ではできない研修を行う。

長崎大学病院の特徴的プログラム3本柱は、①へき地医療（平戸）、②離島医療（五島、対馬）
③「緩和ケア普及のための長崎プロジェクト」を含めた地域医療（診療所研修）である。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- (1) 患者の心理的、社会的側面を配慮し、医療を実践する。
- (2) 保健・医療・福祉各方面のスタッフと連携し、社会復帰、在宅医療、介護を見据えた診療計画を立て、実践する（地域連携）。
- (3) 診療情報提供など、他施設への情報伝達を円滑にできる（コミュニケーション）。

5-2 経験目標

- (1) 頻度の高い症状・疾患を経験し、診療計画を立てることができる。
- (2) プライマリケアに必要な検査や処置ができる。

- (3) 介護保険制度について理解できる。
- (4) 地域住民への健康教育、相談などに参加する。
- (5) 地域の救急医療での初期診断・治療を実施できる。
- (6) 高次医療機関への紹介、入院の適応の判断ができる。
- (7) 緩和ケアや在宅医療についてスタッフに同行し、実践する。
- (8) 関係機関担当者とのコミュニケーションがとれる。
- (9) 関係機関の研修や地域のセミナーに参加する。